

雅 樂 GAGAKU 郷 音 宴





第1部

14
時
開
演

博雅会

〈舞楽〉青海波

- | 舞人 | ▶ 岩崎達也 草間盛也
- | 羯鼓 | ▶ 岩佐堅志
- | 太鼓 | ▶ 山口創一郎
- | 鉦鼓 | ▶ 幾田信道
- | 鳳笙 | ▶ 鎌田康典 橋元里実
- | 箏 | ▶ 南出嘉郎 栞山千夏
- | 龍笛 | ▶ 太田豊 嶋津宣史

雅楽バサラ

春鶯囀 (壱越調調子・遊声・急声)

- | 笙 | ▶ 岡久美子
- | 箏 | ▶ 島田皓史
- | 横笛 | ▶ 大谷忠平

平安雅楽会

〈舞楽〉蘭陵王

- | 舞 | ▶ 森本聖子
- | 羯鼓 | ▶ 高見友理
- | 太鼓 | ▶ 稲川昌孝
- | 鉦鼓 | ▶ 関元隆明
- | 笙 | ▶ 山田祥淳
- | 箏 | ▶ 岡田日出男
- | 笛 | ▶ 中川昂 福原徹心

Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble

胡飲酒 (壱越調調子・序・破)

舞台

- | 笙 | ▶ 永井大志 | 箏 | ▶ 三浦元則 | 横笛 | ▶ 岩崎達也

右

- | 笙 | ▶ 青木総喜 | 箏 | ▶ 國本淑恵 | 横笛 | ▶ 太田豊

左

- | 笙 | ▶ 真鍋尚之 | 箏 | ▶ 中村朋子 | 横笛 | ▶ 藤脇亮



第2部

16
時
45
分
開
演

雅楽道友会

〈舞楽〉胡飲酒破七帖

- | 舞人 | ▶ 藤脇亮
- | 羯鼓 | ▶ 新屋治
- | 太鼓 | ▶ 真鍋尚之
- | 鉦鼓 | ▶ 青木総喜
- | 笙 | ▶ 大西貴子
- | 箏 | ▶ 今西靖志
- | 笛 | ▶ 金原凜

天王寺楽所雅亮会

〈舞楽〉八仙

- | 舞人 | ▶ 多治見真篤 曾根暢貴 巖水法光 鷲慧
- | 三ノ鼓 | ▶ 寺西覚水
- | 太鼓 | ▶ 塩田隆志
- | 鉦鼓 | ▶ 中浩史
- | 箏 | ▶ 前川隆哲 多田真円
- | 高麗笛 | ▶ 石原政洋 山本恵子
- | 装束方 | ▶ 吉光信昭
- | 責任者 | ▶ 寺西覚水

花舞鳥歌風遊月響雅楽団

〈管絃〉双調 胡飲酒破襲楽 〈催馬楽〉安名尊

- 中村香奈子：龍笛 うた | 宇佐見仁：和琴 | 音無史哉：笙 うた
- 佐藤愛美：楽琵琶 うた | 豊英秋：箏 うた | 三浦元則：箏
- 野護元：羯鼓 うた | 國本淑恵：太鼓 箏

※配役は変更になることがあります。

一般社団法人 大阪楽所

〈舞楽〉抜頭 (右方)

- | 舞人 | ▶ 梅春奈津子
- | 三ノ鼓 | ▶ 藪下延幸
- | 太鼓 | ▶ 浅井良純
- | 鉦鼓 | ▶ 橋上公美
- | 笙 | ▶ 廣岡祐介 村尾竜圓 住谷実言
- | 箏 | ▶ 雑喉泰行 森田尚宏 山上正尊
- | 笛 | ▶ 酒井理晴 中川千鶴 浅井孝悦

[司会] 小野真龍 (一般社団法人雅楽協会 代表理事)



大阪 博雅会

雅楽の自由な演奏活動を目的に、1999年4月に発足。北海道から九州まで、全国各地に在住する次世代の雅楽を担う若者たちで構成され、各地で雅楽の演奏活動を続けています。構成メンバーがさまざまな地域に点在するという性格を生かして各地域の雅楽演奏団体とも交流し、講師派遣・人材交流などを積極的に行なっています。現在、定期公演を年に2度開催。その公演数は2026年6月に節目となる50回目を迎えます。なお、「博雅」とは、「広く物事をよく知る」という意味であり、平安中期における雅楽の大スターで映画『陰陽師』でも御馴染みの源博雅みなもとのかひろまさから拝借しています。

メッセージ

博雅会では、2018年の第37回公演より「博雅会チャレンジ」という試みを実施しています。これは前座のような位置づけで、若手演奏家に舞の本番を提供しています。ここで博雅会の新人たちは初舞台を踏み、それ以降の経験に繋がっています。演目が多いのは、やはり「陵王」です。博雅会は今年、結成26年を迎えますが、その中で「陵王」を舞ったのは実に20人。今年も2人の舞人をデビューさせる予定です。

また最近では「博雅会女子部」という試みも始めました。雅楽の世界には女性が立つことができない舞台がありますが、若手の女性の出演機会を増やすことを目的として、「女子による女子のための舞楽」をコンセプトに、若い世代の女性に本番の場を提供しています。尚、こちらの「女子部」は最終的には打物・管・舞人、すべて女性による演奏を目指しています。

今回の演目の左舞「青海波」では、舞人2名が博雅会での初舞台に臨みます。大らかな気持ちで見守って頂ければ幸いです。



関東 雅楽バサラ

「雅楽バサラ」は2023年秋、笙・岡久美子、箏・島田皓史、横笛・大谷忠平が、3人で研鑽を積み、雅楽の魅力を伝えてゆきたいとの思いから結成したユニットです。雅楽に馴染みのない方々にも親しんでいただけるよう、栃木・群馬・埼玉・茨城の4県にまたがる渡良瀬遊水地産の蘆舌ろぜつも使いながら関東各地で演奏し、その普及に努めています。

メッセージ

これまで数多くの演奏会に出演してきた笙と箏の奏者ですが、春鶯囀しゅんのうでんは初の試みとなります。春鶯囀は、一説には鶯の声を聞いた高宗が楽工に写させたとも伝えられる大曲で、六楽章から成ります。

今回はその中から無拍節の「遊声」と、早拍子に始まり序吹で終わる「急声」に取り組めます。雅楽の特性が幾つも織り込まれたこの二曲の魅力を、笙・箏・横笛一管ずつの最小編成で皆さまにお届けできるかが本公演の要となります。三管の奏でる鶯の囀りで春を告げられたら幸いです。



京都 平安雅楽会

平安雅楽会は、恩賜財団平安義会を母体として1916年に設立されました。三方楽所の一つを継承する京方雅楽とするならば、1000年余りの歴史を持つこととなり、京都で最も古い民間雅楽団体です。京都御所の舞楽公演、葵祭・石清水祭などの日本三大勅祭、知恩院・仁和寺・清水寺などの各社寺の祭典や法要で雅楽を奉仕しています。

メッセージ

当会は社寺等の奉仕がほとんどで定期公演は行ってはならず、今回の人材育成を目的とした事業は大変ありがたく感謝致します。

今回は、半数程の会員が新人で、要望の多い舞楽「蘭陵王」を演目とします。30年以上前から積極的に女性会員に門戸を開いており、当日の楽頭（鞆鼓）、舞人は女性です。本番は当理事が準備をバックアップし、見守ります。



東京 Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble

「伝統を重んじ研鑽を続ける演奏家のみ新たな伝統を創造し得る」との理念の下、コロナ禍の2020年に結成。舞台と客席という形式に捉われない演奏形式を用い、「木霊吹こだまぶき」「二群に分かれた退吹・退舞おめりぶき おめりまい」の上演に成功するなど、独自のスタイルを完成。さらに1300年の歴史を持つ雅楽と現代の最新の音楽を融合させる活動を企画。「伝統」と「前衛」という全く相対する両者を双方向から深く掘り下げ、西洋的視点の前衛作品ではなく、雅楽の伝統の延長線上に位置付けに成功。別々の流れであった活動を一元化し、「今日の雅楽・未来の雅楽」を提示。これらの活動が評価され、2024年に第16回「創造する伝統賞」（公益財団法人日本文化芸術財団）を受賞。

メッセージ

NMGEではコロナ禍での野外の演奏を通じて、「空間を演出する音楽」を作ることに取り組んでまいりました。雅楽で古来行われている演奏様式である旋律をずらして演奏する「退吹おめりぶき」や「追吹おいぶき」に焦点を当てて新しい演奏スタイルを創り上げる活動を行なっています。NMGEで独自に開発した木霊を掛け合うように演奏する「木霊吹こだまぶき」、序における群に分かれた退吹、楽拍子での追吹の全てを《胡飲酒こんじゅ》の中でお聞きいただけます。太陽ファルマテックホールのバルコニーも使って演奏しますので、森の中で聞いているような体験をしていただけたらと思います。





東京 雅楽道友会

雅楽道友会は1967年、元宮内庁楽部楽師 故・藺廣教を中心に有志を募り、民間への雅楽の普及および技術向上を目的とし発足しました。会長となった藺は後進の育成こそが天命であると悟り、志ある者を内弟子として育て、民間で初めての雅楽を専門職とする集団を作り上げるとともに、数多くの指導者を世に送り出しました。現在も内弟子であった楽師を中心に、恩師の名「広く教える」を旨に、古典の伝承に励むことと会の名称である「雅の道の友」の集まりであり続けることを指針にして、演奏活動や管楽器の製作をはじめ、会員育成や各地の雅楽団体への指導にも取り組んでいます。

メッセージ

この度の演目である、舞楽「胡飲酒破七帖」は、かつて雅楽道友会の顧問であった故・東儀俊美先生が最も思いを寄せられた舞です。本曲を演奏するという事は、雅楽界において非常に稀な試みであり、舞人、演奏者には、大変な気力と集中力が求められます。まず舞人は熟練した者でなくては本曲の全七帖を舞う事ができません。一方管方は気力と集中力、それに実力が伴わなければ演奏できません。この度の笛を担当する若き育成対象者は雅楽を早い段階からはじめ、小中学校では雅楽道友会が指導する雅楽部に所属していました。「鉄は熱いうちに打て」と言われるように、若くなくては育ちにくいものもあります。この度の雅楽饗宴では、そのような若者が更に修練を重ね、飛躍してくれることを望む演目となっております。



大阪 天王寺楽所雅亮会

1884年に設立された天王寺楽所雅亮会は、四天王寺の「聖霊会」で披露される「聖霊会の舞楽(天王寺舞楽)」を伝承する団体であり、歴史ある「天王寺楽所」の楽統を今日に受け継いでいます。独特の舞態を持った天王寺舞楽は、吉田兼好も『徒然草』において「都に恥じず」と称えており、現在は国の重要無形民俗文化財に指定されています。四天王寺における舞楽法会以外にも、住吉大社や巖島神社でも定期的に舞楽を披露し、日本各地の依頼演奏にも応じています。また、毎年大阪のフェスティバルホールで自主公演会を開催しています。伝統文化ポラ賞(地域賞)等、豊富な受賞歴を持ち、2025年度の北米公演など多くの海外公演歴があります。

メッセージ

江戸時代、天王寺の楽人は右方舞担当であったので、現在行われている天王寺舞楽の右方舞で、個性の際立つ舞楽「八仙」を御覧にいたいと思います。尖った嘴の先端に鈴を吊した、鶴をかたどった独特の面を着けて舞われます。右方の4人舞には面舞が多く、経験を積ませるために、このたび新しい舞人を育成しました。舞の後半部分で、4人の舞人が中央に集まり、手を繋いで「かごめかごめ」のように回転しながら舞う独特の所作がとても興味深い舞です。



関東 花舞鳥 歌風遊月響雅楽団

日本古来より先人が感じてきた「四季折々の風情」や「究極のみやび」をテーマに、雅楽古典曲(歌・管絃・舞楽)の調べを奏で、舞う。雅楽を楽しんだ平安貴族のようにみやびを遊ぶ楽団です。東松山市御鎮座箭弓神社1300年祭記念演奏、高麗郡建郡1300年記念式典、玉敷神社遷座祭記念演奏、褒章受章の祝賀会などで演奏。「お酒と雅楽」「酒といにしへの宴」をテーマにした演奏会は京都の老舗旅館・井筒安および、静岡の浮月楼や丸子宿の丁子屋、東京の大塚月白亭で毎回好評を博してきました。メンバーは中村香奈子、宇佐見仁、音無史哉、佐藤愛美の4名。全員が豊英秋氏に師事。個人としても多彩に活動を展開しています。

メッセージ

「かぶちようかふうゆうげつきょうががくだん」と読みます。通称「かぶちよう」。2015年の十三夜に初公演を行なって以来、「十三夜のみやび」「東遊を歌う」「管絃のあそび心」「お酒と雅楽」など、平安貴族の宴に参加したかのような公演を展開してきました。今回はメンバーの中村香奈子、宇佐見仁、佐藤愛美に、一同が師事する豊英秋氏と、活動当初からの雅楽仲間である三浦元則氏、國本淑恵氏、メ野護元氏を迎え、みやびの調べを奏でます。ちなみに「襲楽」は、そんな私たちの遊びの一つ。盃を心にお楽しみ下さい。



大阪 一般社団法人 大阪楽所

一般社団法人大阪楽所は、宮中に伝わる正統な雅楽の習得と継承を旨とし、さらに雅楽を音楽芸術の一分野として追求、その成果を広く公開することを目的として1983年に結成されました。毎年国立文楽劇場における定期演奏会に向けては、宮内庁式部職楽部の楽師を講師に迎え、古来の伝統を尊重しつつ研鑽を重ねています。これまで上海・パリ・シンガポール・ベルギーなど海外での公演を行い、また神社仏閣の祭礼、企業行事、学校教育の場など多方面で演奏活動を展開してきました。2020年9月には一般社団法人へと移行し、今後も雅楽の普及と発展に努めてまいります。

メッセージ

大阪楽所では、梅春奈津子が「右方 抜頭」にて初舞台を踏みます。女性による抜頭の舞は比較的稀であり、一説には嫉妬に狂う唐人の妃を描いたとされる曲趣を、繊細かつ力強く表現いたします。当会は、宮内庁楽部の先生方のご指導を仰ぎ、創立以来の諸先輩方の志を受け継ぎながら、雅楽を音楽芸術としてより深く発展させるべく日々研鑽を重ねています。次代を担うメンバーが経験を積み重ねることで、全体の演奏水準を高め、伝統の継承と新たな息吹の両立を目指します。



曲目解説

青海波

[出演] 博雅会



この曲は天竺にて婆羅門僧正がこれ聞いて伝えたといひます。日本には平調の曲として伝来し、仁明天皇(在位833-850年)の勅で盤渉調に改作、一説に、舞は良峯安世、楽は和邇部太田麿、詠は小野篁の作ともいわれています。

舞人は2人。装束はこの舞にだけに使われる青海波の文様に百余匹の千鳥の姿を刺繍した袍に半臂、下襲、金帯、踏掛、太刀などを着けます。舞楽装束の中で最も豪華絢爛なものといえます。

源氏物語の紅葉賀巻には「源氏の中将は青海波をぞ舞ひたまひける。片手には大殿の頭中将、容貌用意人にはことなるを、立ち並びてはなほ花のかたはらの深山木なり」とあり、光源氏と頭中将がこの青海波を舞うシーンは読者にひとときわらびやかな印象を与える名場面です。

春鶯囀

[出演] 雅楽バサラ



この曲の由来には様々な説がありますが、一説に昔、夜明け方に鶯の鳴き声を聞いた唐の高宗(在位649-683年)が、それをもとに楽人の白明達に命じて作らせたといひます。

また日本では仁明天皇の承和年間(834-848年)に、舞の名手であった尾張浜主が百十余歳の高齢でこの舞を舞ったという伝説があります。既に背が曲がり身動きも不自由な彼が、舞いだすとまるで少年のようであったため、「天長宝寿楽」等の別名を持ち、古来おめでたい曲とされています。

舞楽の際は、襲装束の袍の両肩を脱いで、刺繍の美しい半臂と下襲の袖を翻しながら6人または4人の舞人が舞います。

〈舞楽〉蘭陵王

[出演] 平安雅楽会



中国の南北朝末期の北齊(550年頃)の蘭陵王長恭が金墮城で周の大軍を打ち破った史実を基に作られたといわれています。長恭は才知武勇にして美貌の持ち主で、戦の際は、味方の兵が見入ってしまうと士気が上がらないのを防ぐために獐猛な仮面をかぶって指揮を執ったと伝えられています。舞人は首をもたげた竜をほどこした金色の面を付け、右手には金の桴、毛縁の襦袢装束を身に着け勇壮華麗に舞います。舞人1人の走り舞です。「林邑の八楽」の1つです。

胡飲酒

[出演] Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble /
雅楽道友会 / 花舞鳥歌風遊月響雅楽団



この曲は天平八(736)年に林邑国(ベトナム)の僧、仏哲が我が国に伝えたと言われており、「林邑の八楽」の1つです。仁明天皇の時に改作されたとの説もあります。

管絃でも演奏され、舞とともに舞楽でも演奏されます。酔胡楽、宴飲楽、飲酒楽ともいわれ、胡国の王が酒を飲んで酔って舞った様子を舞にしたものといわれています。胡飲酒には序と破の曲があります。

胡飲酒破は巻越調の曲ですが、渡し物として双調の曲もあります。

〈催馬楽〉安名尊

[出演] 花舞鳥歌風遊月響雅楽団



催馬楽は平安時代に作られた歌曲で民謡などの歌詞に拍節的な節をつけて歌うもの。

安名尊の歌詞は以下の通りです。

あな尊 今日尊さや いにしえも はれ いにしえも かくやありけむ
今日の尊さ あはれ そこよしや 今日の尊さ

〈舞楽〉八仙

[出演] 天王寺楽所雅亮会



右方の4人舞。八仙とは、崑崙山の8人の仙人が帝王の徳を慕って中国へ来朝し、曲を奏して舞ったという伝説により、崑崙八仙の名があります。尖った嘴の先端に鈴を吊した、鶴をかたどった独特の面を着け、冠は鳥の頭の毛を象徴する形で、鶴の舞う姿を象ったもの。鶴舞とも呼ばれています。舞の後半部分で、4人の舞人が中央に集まり、手を繋いで回転しながら舞う独特の所作があります。

〈舞楽〉抜頭(右方)

[出演] 一般社団法人大阪楽所



中国地方の地で、父を猛獣に噛み殺された息子がその仇を討ち、喜んで山道をかけおりにくるありさまを舞いにしたという説と、唐の後が嫉妬して鬼となった形の舞であるという2つの説があります。顔をかきむしるような舞ぶりは、抜頭の舞の特徴です。『枕草子』の「舞は」にも「抜頭は髪振り上げたままなどは、うとましかれど、楽もなほいとおもしろし。」と記されています。

抜頭はリズムの異なる舞いかたで2種類の舞があります。只拍子(二拍子・四拍子の繰り返し)で舞うのを左方の舞といい、八多良拍子(二拍子・三拍子の繰り返し)で舞うのを右方の舞といいます。

中澤信孝(一般社団法人雅楽協会副代表理事 日本雅楽会会長)

一般社団法人雅楽協会

一般社団法人雅楽協会は、雅楽界全体が共有する課題の解決を目的として、宮内庁式部職楽部と民間の雅楽関係者が手を携え、2023年9月に設立した全国組織です。

雅楽の継承に必要な材料・用具類の確保や人材育成、継続的な普及振興、ならびに国や地方自治体など関係行政機関との連携の窓口としての役割など、個人や一団体では担いがたい公益的な取り組みを行っています。

事業紹介 筆箒用ヨシ確保の取り組み～高槻「鶴殿のヨシ原」と雅楽

雅楽の主旋律を担う楽器「^{ひちりき}筆箒」の吹口である「^{ろぜつ}蘆舌」は、植物のヨシを素材としており、古くから高槻市の淀川右岸に広がる「鶴殿のヨシ原」で採取されてきました。鶴殿のヨシ原は、江戸時代初期に制度化された「三方楽所」―大内楽所(京都)、南都楽所(奈良)、天王寺楽所(大阪)―のほぼ中央に位置しています。現在も鶴殿のヨシは宮内庁式部職楽部に納められるほか、民間の演奏者にも広く用いられており、雅楽の音色を支えるために欠かせません。

近年、生育状況の悪化によりヨシの採取が難しくなっていることから、雅楽協会は筆箒用ヨシの継続的な確保に取り組んでおり、2025年6月に「鶴殿のヨシ原保存会」「上牧実行組合」「高槻市」とともに、〈雅楽の楽器「筆箒」用ヨシ保全コンソーシアム〉を設立しました。コンソーシアムには、文化庁および国土交通省がオブザーバーとして参加しています。

筆箒用ヨシの生育には、成長を妨げる植物の除去など、人の手による管理が必要です。コンソーシアムでは、除草事業を中心に筆箒用ヨシの安定的な確保に取り組んでいます。

一般社団法人雅楽協会主催公演「雅楽響宴」

本公演は、雅楽関連人材の育成を目的としており、文化庁文化芸術振興費補助金〔舞台芸術等総合支援事業(芸術家等人材育成)〕の採択事業です。公募により決定した雅楽団体がそれぞれ人材育成に取り組み、本公演において研鑽の成果を公開します。

今回は、関東・関西から参加する実力ある8団体による「響宴」となります。成り立ちや活動内容の異なる様々な団体が一堂に会し、現在の雅楽界の姿を映し出すような公演です。かつて関西各地の雅楽人がヨシを求めて訪れたこの地に、今また全国から雅楽人が集い、新たな雅楽の舞台を繰り広げます。

なお、本公演は、高槻市および公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団の共催により実施しています。雅楽協会と高槻市は、2025年8月に包括連携協定を締結し、文化的魅力を高めるまちづくりと、伝統芸能文化の振興に連携して取り組んでいます。

雅楽響宴

一般社団法人雅楽協会主催公演「雅楽響宴」

2026年1月31日(土)

高槻城公園芸術文化劇場 南館 太陽ファルマテックホール

主催：一般社団法人雅楽協会

共催：高槻市／公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(芸術家等人材育成))
独立行政法人日本芸術文化振興会

出演：博雅会／雅楽バサラ／平安雅楽会／Naoyuki MANABE GAGAKU Ensemble

雅楽道友会／天王寺楽所雅亮会／花舞鳥歌風遊月響雅楽団／一般社団法人大阪楽所

司会：小野真龍(一般社団法人雅楽協会 代表理事)

体制：●一般社団法人雅楽協会

小野真龍(一般社団法人雅楽協会 代表理事)

企画・制作：長谷川直子(一般社団法人雅楽協会 事務局長)

制作：佐藤拓矢／相馬寿友美

●高槻市

文化スポーツ振興課：水田紘郎／森健誠／藤巻俊亮

市長室：向田和広

●公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団

鮫島雄輔

〔舞台管理〕株式会社橋爪

〔舞台設営〕日本ステージ株式会社

〔協力〕株式会社グリーンズコーポレーション

〔撮影〕EventBox合同会社

〔デザイン〕株式会社オーバル

雅楽協会の活動をご支援ください。



雅楽協会webサイト
<https://gagaku-kyokai.or.jp>



ご入会
<https://gagaku-kyokai.or.jp/entry/>



ご寄付
<https://gagaku-kyokai.or.jp/donation/>

